

[039]九州大学ビジネス・スクールニューズレター

<https://hdl.handle.net/2324/7162104>

出版情報：九州大学ビジネス・スクール ニューズレター. 39, pp.1-, 2023-11. 九州大学ビジネス・ス
クール
バージョン：
権利関係：



編集発行▶九州大学ビジネス・スクール 担当▶QBS支援室 住所▶〒819-0395 福岡市西区元岡744 電話▶092-802-5558
メールアドレス▶qbs@econ.kyushu-u.ac.jp ▶facebook.com/QBS.MBA

QBS Family day

8月20日にQBSとして初めてのFamily Dayを開催しました。学生を支える家族にQBSで学ぶ理解を深めてもらうと共に、家族を尊重し、応援される、学びやすい環境の雰囲気作りを促し、生涯を通じて学び続けることの大切さを共有するといった目的のもと、開催されました。当日は目次専攻長をはじめとする教員、QBS学生及びその家族が一堂に会し、総勢50名と多くの参加者がありました。

主なプログラムは教員からの講義+学生からの講義、グループワークを行いました。全員参加で楽しめるといったコンセプトのもと荒木先生からは昆虫食についての興味深い話をいただくだけでなく、実際に昆虫食の試食も行いました。また、21期生のチングウンさんからコンビニの商品開発についてレクチャーいただきました。その後、21期生の庄野さんファシリテートのもとこんな商品があったらいいなというテーマで企画書をグループで作成し、参加者全員でディスカッションが展開されました。グループワーク終了後、各グループからその企画書の発表を行い、子供の自由な発想から生まれた企画書やQBS生顔負けの本格的な企画書や発表があり、盛会でした。

日々のサポート頂いている家族への感謝も伝えられ、特に21期の鈴木さんからは奥様やお子さんへの感謝の手紙が読まれ、場内は感動で包まれました。このFamily Dayは学びはもちろん、家族との絆を深め、感謝を伝えられる場となり、参加者の満足度も高かったと思われます。来年以降も続くQBSの定番行事にしたい会となりました。

藤田 悟(21期生)



特別選抜入試説明会のご案内

日 時：令和5年11月29日(水) 19:00~21:00
会 場：JR博多シティ10階 会議室I+J (福岡市博多区博多駅中央街1-1)
内 容：九州大学ビジネス・スクールの概要と特別選抜入試について、修了生による座談会等
参加申込：参加ご希望の方は下記のお申込フォームよりお申込みください
<https://qbs.kyushu-u.ac.jp/form-sys/>

※お申込時に「会場参加」もしくは「オンライン参加」をお選びください。



「説明会ご案内ページ」

九州大学ビジネス・スクール[MBA課程]
2024年4月入学生(22期生)

特別選抜入試

変革をリードし、新たな事業価値の創造に挑戦する意欲を持つ学生の募集を重点的に行うため、特別選抜を実施します。

出願期間/2023年12月21日(木)~2024年1月4日(木) 17時まで
(土日祝日及び12月29日~1月3日は窓口受付なし)
試験期日/2024年1月21日(日)
募集人員/若干名
選抜方法/書類審査・口頭試問ほか
合格発表/2024年2月14日(水)

入学試験に関するお問い合わせ先

〒819-0395 福岡市西区元岡744
九州大学人文社会科学系事務部学務課(経済担当)
TEL▶092-802-6383
E-Mail▶jbk-qbs@jimu.kyushu-u.ac.jp
ホームページ▶<https://qbs.kyushu-u.ac.jp/>

碓邦生講師着任のご挨拶



9月1日をもって、QBSに着任した碓 邦生(いかり くにお)と申します。本校では、「組織行動論」と「リーダーシップ論」を中心に担当させていただきます。

働き方改革や労働の多様化、グローバリゼーションの推進など、現代のビジネス環境は変化のスピードが早く、それに伴って、高度なマネジメント行動が求められるようになってきました。しかし、伝統的に日本の商慣習では、ヒトに関するマネジメントは勘と経験が重視され、学術的な理論や発見が実務に応用されることは限られてきました。

反面、世界に目を向けると管理職以上がMBAを取得することが珍しいことではなくなり、最新の論文を読み、研究成果をマネジメントに応用する場面が増えてきました。代表的な例としては、NETFLIXがINSEADのエリン・メイヤー教授の理論である「カルチャー・マップ」を積極的に活用してマネジメントを行っています。

しかし、日本でも、ヒトのマネジメントに学術知見を応用しようという動きが広まっています。2022年に報告された「人材版伊藤レポート2.0」では、人的資本経営の重要性が広く知られるようになりました。

これまで、日本企業ではヒトに関する学術理論を積極的に実務に応用することは限られていました。このことは、見方を変えると、日本企業が学術知見を学び、応用することで進歩する余地が大きく、伸びしろがあるということです。

QBSでの研究と教育を通して、九州をはじめとした日本企業のヒトのマネジメントを進化させる役に立てると幸いです。

Welcome to Fukuoka!

今年も、QBSに中国、台湾、フィリピンから11名の交換留学生が、仲間として加わりました。10月からの約4か月間、20期生21期生と共に英語開講科目を受講し、学びます。

昨年度までは、新型コロナウイルス感染防止による入国制限などの影響により、来日が遅れる留学生達もいましたが、今年度は9月25日(月)に博多教室で開催されたオリエンテーションに、全11名が来福して参加しました。オリエンテーション後の歓迎会では、留学生、在校生、教員が入り混じり和やかに親睦を深めました。

講義はもちろんのこと、福岡での半年間の滞在中に素晴らしい思い出づくりができるよう、QBS一丸となってサポートしていきます。ますます多様性に富むQBSの講義が、在校生と留学生の大きな学びの場、成長の場となることを願います。

力丸 美和(QBS支援室)



浙江大学ビジネススクールのQBS訪問

中国のトップビジネススクールの一つ浙江大学経営学院が5年ぶりにQBSを訪問しました。10月4日(水)、MBA学生40名と引率の王教授が伊都キャンパスで、広垣准教授(Introduction to Consumer Behavior)、高田教授(Entrepreneurship and New Business Creation)による講義を受講。引き続きキャンパスツアーを実施しました。また翌日の5日(木)には、碓講師(Global leadership and characteristics in Confucian areas)による講義では、活発なディスカッションと発表、フィードバックが行われました。前日の3日(火)にはQBS学生会による懇親会も開催し、両校の双方向の交流がさらに深まりました。

広垣 光紀(マーケティング戦略、国際マーケティング)



「アジア・ビジネス戦略」担当の招へい外国人研究員 チュラロンコン大学Rapeeporn Rungsithong先生からのメッセージ

First of all, it is my pleasure to be invited by Professor Hoshino, Professor Mokudai and QBS as a visiting professor and special project researcher at Kyushu University in this Fall/Winter semester.

During my post at QBS, I will teach a course “Asian Business Strategy” which covers the business strategy concept in the context of the Southeast Asian market. With the diverse business environment in this market, I will provide strategic management concepts to help the students design a winning strategy in this competitive landscape. Also, there are many interesting case studies from multinational companies that the students can learn from their success and failures in the Southeast Asian market.

For my research interest, I am looking at the cultural intelligence of Japanese expatriates and how they adapt their management styles to work well with their Thai colleagues at Japanese subsidiaries in Thailand. If anyone is interested in this topic, please feel free to have a conversation with me at Rapeeporn@cbs.chula.ac.th.

Lastly, I hope my class and my research will bring in new perspectives on the Asian business environment to the QBS students.



Dr. Rapeeporn Rungsithong,
Chulalongkorn University

今年度のラウンドテーブル・ ミーティングを開催しました

去る9月23日(土)の夕刻、今年度のラウンドテーブル・ミーティングを開催しました。ラウンドテーブル・ミーティングは、教員と学生の相互理解を深め、QBSをより良くするためのフランクな意見交換、アイ



デアだしの場とすることを目的としています。

昨年度のミーティングからは、必修授業の分散化、ファミリーデーの実施、教員動画のHP掲載などが実現しています。

当日は、教員9名と学生19名、そして学務課からはQBS担当の小林さんも参加され、Zoomのブレイクアウトルームを使って様々なディスカッションを行いました(雰囲気は写真をご覧ください)。今後、学生会とQBS執行部教員がフォローアップミーティングを行い、アイデアの具体的な実行プランをまとめていく予定になっています。

小城 武彦

(コーポレート・ガバナンスと監査、マネジメント・コントロール)

LIVE QBS新シリーズ！ QBSホームページの動画コンテンツご紹介

「QBSの先生や講義についてもっと知りたい!」というQBSに関心をお持ちの皆様の声に応えまして、「LIVE QBS」の新シリーズが始まりました!

今回の動画は教員や講義にスポットをあて、目代武史教授の「生産管理」の講義の様子をご紹介しました。「生産管理」は、「物と情報の滞りのない流れづくり」を狙いとした講義で、受講生のインタビューでも「学んだことが翌日生かせる」との感想がありました。

また、小城武彦教授の「コーポレートガバナンスと監査」の講義の様子もご紹介しました。

「経営は総合格闘技」と語る小城先生の講義は、まさに経営は総合格闘技であることを体感できる構成であると受講生からも感想をいただきました。動画では、模擬取締役会の様子を紹介しています。

QBSの魅力を知ることができる動画コンテンツ「LIVE QBS」を、皆様もぜひご覧ください。



<https://qbs.kyushu-u.ac.jp/exam-candidate/teachers-voice/>

力丸 美和(QBS支援室)

在校生紹介



須ノ内 利香さん(20期生)

所属▶歯科医院

QBSを受験したのは、「自分の人生はこのままでいいのだろうか?でも、何をどうしていいかわからない」という“人生ももん期”に入っていた時でした。

そんな時、以前QBSに行っていた人の話をふと思い出し、何事もやってみなければわからない精神で受験しました。QBSでは講義を聞くだけでなく、色んなバックグラウンドをもつクラスメイトと討論しながらインプットとアウトプットを行うことで、自分一人では考えつけない発想が生み出すことができます。興味があれば芸術工学府の授業も受講することができ、デザインの視点からビジネスを検討することも学べます。

普段、芸術系の学生と関わることがないので、芸工生の斬新な考え方は毎回驚かされます。このように、様々な分野の人たちと関わることで、視野が広がるのだということも学ぶことができます。もし今“人生ももん期”の方は、ぜひ受験してみてください。その小さな1歩が人生を変えることを信じて。



田邊 公平さん(20期生)

所属▶三菱重工業株式会社

弊社の創立は1884年。岩崎彌太郎が政府より工部省長崎造船局を借り受け長崎造船所と命名した年にさかのぼります。歴史がある弊社に対しても予測困難なVUCAの時代は容赦せず、市場は暴力的なまでの適応を強制しています。

生き残りをかけて戦っていくなかで、もう一段自己を成長させ会社を成長させより社会に貢献したいと思い、QBSに入学致しました。弊社のような日本の伝統的な大企業は外部環境の変化に疎いところがありますので、勇気を出して外に飛び出しました。

入学後は人生で最も充実した日々を送っています。講義、学生会活動、プロジェクト演習(ゼミ)、そして仲間との一献。QBSには自己成長のためのあらゆるリソースが揃っています。一部の流行に流されることのない核を学ぶことができ、総合大学としての器の広さを実感しています。

これから半年間はQBS生活の総仕上げです。かけがえのない仲間とともに、よりよい社会を目指して走りぬきます。

QAN便り



QBS関係者の皆様、こんにちは。15期の西井です。

さて、この度QAN会長という立場を前会長の寺松さんより引き継ぐ運びとなりました。

私は16歳から25歳まで海外で過ごし、4年程福岡の半導体商社に勤めた後、30歳の年に転職とほぼ同時にQBSに入学しました。

QBSに入学した理由は大きく2つ。大学(学士課程)では経済学に全く触れなかったので今後のために学びたかった事と、学生時代の大半を海外で過ごしたため構築できなかったコミュニティを日本で創るためです。皆様もお感じになられている事と思いますが、QBSで構築した人脈は、同じ苦労を共有し切磋琢磨した仲間との絆があり、他の異業種交流会等で形成できたものとは質が異なります。

今回、QAN会長といういささか過大なポジションをお引き受けする事となりましたが、これからもこのコミュニティを継続発展させる事に精一杯努めさせて頂きたいと思っておりますので、皆様にはQAN主催イベントへの積極的なご参加をお願い申し上げます。

QAN代表理事 西井 健雄(15期生/株ニシイ)

QBS教員の著書紹介

▶『アメリカ産業イノベーション論』

宮田由紀夫・安田聡子(編著)、晃洋書房、2023年4月出版、3,080円



イノベーションとは、新製品・新製法を成功裏に実用化することです。本書では、建国から現在までのアメリカで、イノベーションがどのようにして誕生・普及してきたかを論じています。素材、自動車、航空機、コンピュータ・IT、バイオ・医薬品などの産業で起こったイノベーションについて、ニーズ、シーズ、科学、技術がどのような役割を果たしてきたか、また企業は外部ソースとの関係をどのように

築いたのか等について、それぞれの分野の専門家が解説しています。本書ではまた、特許・競争政策、科学技術政策、会計制度、移民政策など、イノベーション育む制度的環境についても明らかにしています。アメリカはなぜ「イノベーション大国」になりえたのか、ヒントにあふれた1冊です。

安田 聡子(産業と技術)

▶『経営倫理入門ーサステナビリティ経営をめざしてー』

日本経営倫理学会(編集)、文真堂、2023年3月出版、2,500円



現代社会では、企業は経済的・法的責任を遵守するとともに、これらを超えて社会からの期待に応えることが求められるようになってきました。このような社会状況において私たちが「企業は何をすべきか?何を目指すべきか?」を考察するにあたり、経営倫理学は多くのヒントを与えてくれます。本書は、日本の経営倫理学の研究者が集い、経営倫理学を学び始めようとする方々に向けて執筆した書籍になります。「企業は倫理的であるべき根拠は何か?」という根本的な問いから、「ESG」や「SDGs」など現代の経営実務において注目を浴びているトピックの解説まで幅広い内容が含まれます。その題名の通り経営倫理学を学ぶ良い入門書となっています。

平野 琢(企業倫理、経営リスクマネジメント)

修了生紹介



紫藤 観さん(18期生)

所属▶株式会社みる事務所、M&J COMPANY株式会社

QBSでの2年間は、私に新しい気付きの時間を与えてくれました。福岡にUターンして、今までの経験も実績も一旦横に置いて、ゆったりとした時間の中で新しい人生を始めたいと意識的に20年のキャリアをリセットしました。しかし、「頭がヒマ過ぎる」という、自身で想定していなかった悩みが勃発。この悩みは、想像以上に苦痛で、日に日に私の不安を煽る大きな悩みとなりました。先に入学していた元同僚から薦められ、この問題を打破するために、QBSの門を叩きました。

最初は、自分が実践してきたビジネスを体系的に学ぶことに魅力を感じましたが、それを上回ったのが教授陣の質の良い質問。自分のワクワクを引き出してくれる質問に、何度も心をときめかせました。そして何より嬉しい誤算は、QBSの学びをきっかけとし、もっと挑戦してみたいと新たな欲が出てきたことでした。これまでは、大企業のもとで組織価値の追求をしてきましたが、今度は、自身で価値を創り出し、社会に貢献したいと思うようになりました。今年新たに2社目の会社を立ち上げ、また一歩を踏み出します。自身と向き合う環境を提供してくれたQBSに感謝しています。



横田 礼美さん(19期生)

所属▶株式会社佐賀銀行

私は地方銀行に勤務しており、営業店では営業職、本部では人事企画部で人材育成に携わってきました。外部環境の変化のスピードが上がる中、企業と人、そしてそれぞれの人財が活躍できる企業として成長するために自分ができることは何かと模索していました。思い悩むよりまずは自身の学び直しが必要であると考えQBSの門を叩きました。

QBSでは財務、組織、戦略等の経営に関する様々な分野を体系的に学ぶことができました。またアカデミックな学びは基よりディスカッションも多いことから、共に学ぶ仲間から多くの刺激と知見を得たことから、自分自身の考えの幅を広げることが出来たと感じています。このようにたくさんの出会いは大きな財産であり、卒業後も繋がりを持つ機会も多く、これからも学び続けていきたいと思っています。

またゼミを通して探した自分自身の「軸」を大切に「志」を成し遂げていきたいと思っています。

